老舗のコーヒー専門店 クリア分煙のスモーククリアの導入で、喫煙者も非喫煙者も気持ちよく過ごせる癒やしの空間を実現

ぽえむ幡ヶ谷店

東京都渋谷区幡ヶ谷2−8−10　リッシェル幡ヶ谷1F
店舗面積：15坪
客席数：34席（うち個室6席）
営業時間：9時30分〜19時

コーヒー専門店「ぽえむ幡ヶ谷店」は、新宿駅から京王新線で2駅目、幡ヶ谷駅の出口を出て徒歩30秒。駅前を走る甲州街道を曲がった路地に面した路面店で、50年近い歴史を持つ。周辺は、商店、小規模オフィス、住宅、マンションなどが混在。常連客も多く、ペーパードリップで淹れるこだわりのコーヒーを楽しむ人達で賑わう。

株式会社日本珈琲販売共同機構 代表取締役社長 山内豊也氏

カウンターの続きに設置されたスモーククリアは違和感なくなじみ、カウンターで働くスタッフは、煙もニオイも気にならない

以前は電話ボックスを設置し、その後は客席にしていたスペースにスモーククリアがぴったり納まった

■一杯のコーヒーを通して、まごころと本物をお伝えしたい

「ぽえむ」は1966年に東京・阿佐ヶ谷で創業し、1971年に、コーヒー専門店として初めてFC展開を開始した。現在、直営店2店舗、FC店17店舗の計19店舗を構え、「幡ヶ谷店」は直営店のひとつだ。

同店のメニューは、コーヒーだけで約100種ある。「一杯のコーヒーを通して、まごころと本物をお伝えしたいというのが私たちの想い。お客さまのご要望にお応えしているうちに増えていきました」と、FC本部の株式会社日本珈琲販売共同機構 代表取締役社長、山内豊也氏。

基本のコーヒーは、自家焙煎の深煎り豆を使い、ペーパーフィルターを使用してハンドドリップで一杯一杯ていねいに抽出する。香り高く、やや苦みのある深煎りならではの味わいは、コーヒー好きにはたまらない。6人用の個室もあり、会議室や応接室代わりに使用する近隣のオフィスも多い。

■JT×スモーククリアのキャンペーンに背中を押されて導入

同店は、もともとは店内で喫煙できる環境にあったが、改正健康増進法が施行された2020年4月以降は全面禁煙に踏み切った。「喫煙者は年々減る傾向にはあったものの、コーヒーとタバコは親和性があり、一服を楽しみにご来店くださる常連のお客さまもいらっしゃいます。全面禁煙は心苦しかったのですが、スペース的に分煙は難しく、禁煙にするしかありませんでした」（山内氏）。

実は、世の中の流れが禁煙に傾いていることなどから、一足先に完全禁煙に踏み切ったFC店があり、「客数が2割減ったという現実を見ていたので、売上への影響は覚悟していました」と話す山内氏。しかし、この直後にコロナ禍が始まった。

「客数は大きく落ち込みましたが、コロナの影響もあり、禁煙の影響を図るのは難しい状況でした。その後、コロナに伴う規制が緩和された2022年になると、徐々に売上が上がってきたものの、2023年は頭打ちになり、喫煙されるお客さまが戻っていないのではと感じるようになりました」（山内氏）。

山内氏は、紹介を受けたJT関係者から、都心の繁華街では喫煙できる喫茶店が賑わっていることや、分煙設備を整えた喫茶店の状況などの情報を得ていた。

「うちでは、入り口で喫煙の可否を聞き、吸えないと分かると帰ってしまう方や、入店されても店外に出て物陰でこっそり吸う方もいらっしゃいました。分煙できる環境を整えたいという思いは日増しに強くなりましたが、喫煙室からタバコの煙やニオイが漏れると、タバコを吸わないお客さまの快適さが損なわれてしまうので躊躇していました」（山内氏）。

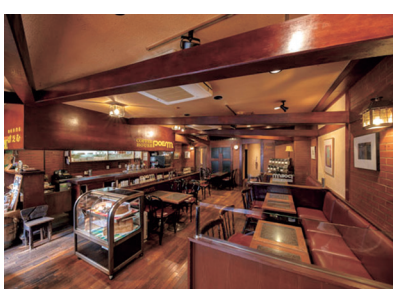
そんな折に、喫煙設備導入に向けて背中を押してくれたのが、JTからもたらされた、JTとエルゴジャパンの喫煙ブース「SMOKE CLEAR（スモーククリア）」がコラボレーションした、「分煙対策特別キャンペーン」の情報であった。来店したJTの担当者は、機能の説明にとどまらず、携帯電話の普及以前は電話ボックスを設置し、その後は客席に転用していたカウンター横のスペースを指して、「ここにぴったり納まります」と設置場所まで提案してくれた。

高性能であることに惹かれた山内氏は、「スモーククリア」導入先リストをもとに、お客として数店舗を回り、ブースのそばの席でも煙やニオイを感じないことや、ブース内で喫煙したお客もタバコ臭さが全くないこと、さらに使用直後のブースに入って煙もニオイも残っていないことを確認。「スモーククリアなら、タバコを吸うお客さまも吸わないお客さまも共生できると確信しました」と、数日で導入を決断した。

そして、JTが提案したスペースの4席をつぶし、2023年11月8日に「スモーククリア」を設置。「茶系を基調とした、落ち着いた内装の店内に違和感なくなじみ、動線を邪魔することもありません。私自身、喫煙者ではないのですが、ニオイが全く気にならない」（山内氏）。

ただ、現状はタバコを吸わないお客に配慮して、大々的な宣伝は控えており、「喫煙客が劇的に増えたということはありませんが、徐々に認知が高まっています。今ではお客さまの約1割がブースをご利用され、リピート客も増え、至福の一服を楽しまれています。喫煙者は気兼ねなくタバコを吸え、非喫煙者も気持ちよく過ごせるクリア分煙が実現できて満足しています。今後、ネット情報の充実等宣伝を増やすので、喫煙客が増えると思います。」と話す山内氏は、成果が数字に表れたら、FC店や知り合いの喫茶関係者にも薦めたいと考えている。

路地裏の落ち着いたたたずまいの店舗。この路地は、駅を利用する地元住民の抜け道となっており視認性は高い



太い木の梁や柱、床などをダークトーンの茶系でまとめ、壁にはレンガをあしらった店内は癒やしの空間だ

自家焙煎の深煎りコーヒー豆を使用し、ペーパーフィルターで一杯ずつドリップするコーヒーは、香り高く深みのある味わいだ

入り口の扉脇に、クリア分煙を示すポスターを掲示

導入の決め手

- ■タバコの煙もニオイも外部に漏れない優れた性能。
- ■コンパクトでデザイン性にも優れ、店舗の雰囲気になじむこと。
- ■コーヒーと親和性のあるタバコを楽しめる環境を整えられること。
- ■工事不要で100ボルトのコンセントがあれば設置できる手軽さ。

導入効果

- ■禁煙期間に離れた喫煙客が徐々に戻り、客数がアップ。
- ■喫煙者も非喫煙者も共生できる癒やしの空間を整えられたこと。
- ■禁煙風潮の中で肩身が狭い喫煙者に、気兼ねなく喫煙できる場を提供できたこと。